

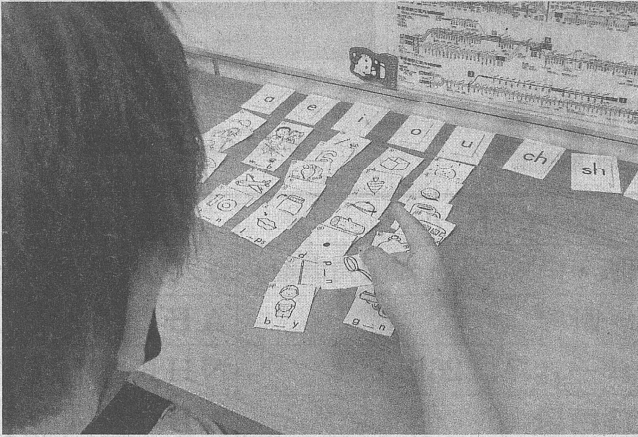
# 安心できる居場所を

## 十人十色

10

子どもたちの今

昨年3月、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて全国の学校が一斉休校となりました。あれから1年半。コロナ禍が長期化する中、「子どもが学校に行きたがらなくなった」という保護者の相談が増えています。先月もあるお母さんから1本



## 長引くコロナ禍のなかで

の電話を受けました。以前は病気以外ではほとんど休まなかったそうですが、「昨年の一斉休校で生活リズムが乱れ、休校明けから朝起きにくくなり、休むことが多くなりました。親も色々な声かけをしてきましたが、家から出ない日が続いています」といいます。

まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が相次いで発令され、大人ですら大きなストレスを感じています。行動制限や、先の見通しが立たないことへのいらだちや不安による、子どものストレスは計り知れません。

電話の後、お母さんに相談に来ていただき、家庭での様子を伺うと「子どもは外出や活動の機会が減ることにイライラが強くなり、料理の味付けや部屋の温度が好みと違うだけで大声で叫んだり、物を壊したりする行動が増えました」とのことでした。

子が、緊急事態宣言の発令が影響したのか、急に「学校に行くのが怖い。友だちと遊びたいけれど、外に出るのが怖い」と学校に行けなくなりました。

コロナ禍の長期化は、人と人の距離だけでなく、心の距離さえも遠ざけているように思います。皆がストレスや不安を感じている中、大人は、子どもたちが安心できる居場所を確保し、不安な気持ちに寄り添ってあげることが必要だと思えます。

不登校の増加傾向を受けて、アットスクール本部校のある草津市では今月から、児童生徒の居場所や学びの確保を通じて将来の社会的自立を目指すフリースクールの授業料について、利用家庭の負担を和らげようと補助金交付事業が始まりました。学校でも、学校以外の場所であっても、子どもたちが不安から解放され、安心できる居場所の選択肢が増えることで、離れた心の距離は縮まり、子どもたちにも笑顔が戻ってくると思っています。

また別の日には、学校が大好きで、今まで休んだことのない

(発達支援塾アットスクール代表 鈴木正樹)